



# クリキンディ



● 発行：香川県青年海外協力協会 ● 発行日：平成 24 年 8 月 1 日（水） ● No.008

## ～派遣中隊員の感じた東日本大震災①～

H21-3 次隊 柏原庸一（環境教育/ミクロネシア連邦）

2011 年 3 月 11 日、「日本で大地震が起きた、津波が来るかもしれない。山に避難するぞ!」私の任地ミクロネシア連邦コスラエ島にその情報が伝わり、ホストファミリーと共に山へ避難した。幸いコスラエ島には被害はなく無事であったが、ステイ先に戻りネットで震災の情報を確認すると想像を絶する被害であった。連日被害が拡大していく状況で、何もできない自分にもどかしさがあった。コスラエの人々は「日本は大丈夫か?」と心配してくれた。「大丈夫だ!」とは言える状況ではない。たくさんの人が日本を心配してくれている。そこで思いついた自分のアイディアはコスラエの人々から応援メッセージを書いてもらい日本に届けようというものであった。コスラエの人々は快く応じてくれた。



「全ての日本の人々が苦難に遭遇している中、私達は日本の皆さんを勇気づけるために祈ります。」

これらのメッセージは写真と一緒に自身のブログに掲載し、JICA ミクロネシア支所を通じ日本の人々に伝えてもらう事になる。

- Encouragement message from Kosrae to Japan  
<http://blog.livedoor.jp/kassy0102kaidanji/archives/4422826.html#>
- Encouragement message from Kosrae to Japan2  
<http://blog.livedoor.jp/kassy0102kaidanji/archives/4462150.html>



2011 年 5 月 26 日、コスラエ島で東日本大震災追悼セレモニーが行われた。コスラエの人々が今回震災の影響で被災された人々に向けて「少しでも元気になり復興に向けて前進して欲しい」という思いから行われたセレモニーであり、コスラエ中の人々から応援メッセージが届いた。追悼ソングが歌われ、集まった 13000 ドルもの義援金が日本に贈られた。また、日本語で書かれた応援メッセージには何より驚かされた。本当に素晴らしいセレモニーであった。このセレモニーの様子もミクロネシア連邦環境隊員ブログに掲載し、同じく JICA ミクロネシア支所を通じて、JICA ホームページ内「世界 HOT アングル」にもこの様子が掲載された。これもコスラエの人々と日本の人々が良好な友好関係を築いてきた結果だと思う。



「コスラエより心をこめて(Kosrae care)  
「遠い南の島からも日本を思ってる(We care)」



「日本のみなさんの気持ちを思うと言葉も出ません。」

■東日本大震災追悼セレモニー(ミクロネシア環境隊員ブログ)  
[http://blog.goo.ne.jp/micro\\_jocv/e/2073e85a4c3039add6ddc9390ae7f6b6](http://blog.goo.ne.jp/micro_jocv/e/2073e85a4c3039add6ddc9390ae7f6b6)

■東日本大震災追悼セレモニー(世界 HOT アングル)  
<http://www2.jica.go.jp/hotangle/oceania/fsm/000893.html>

私自身にとっても 2 年間のコスラエ生活の中で、非常に印象に残る出来事の 1 つとなった。そして残りの任期は活動以外でもコスラエと日本の友好的な交流のために努めたいと改めて思った。現地語を話し、現地の人々と密に交流できるのは協力隊の醍醐味であると思う。

帰国後、東京の会社に就職して 4 月より働いている。仕事の休みを利用して微々たることしかできないが、私も一度被災地へ赴き、ボランティア活動をしたいと思っている。現在、同じ香川の同期隊員である宮治直子さんが被災地で頑張っているのので、彼女を通じて香川の協力隊でも支援ができればと思う。復興への道のりは長い。震災から 1 年以上が経ったが絶対に忘れてはいけない事だと思う。

## ～派遣中隊員の感じた東日本大震災②～

H21-3 次隊 宮治直子（保健師/パラグアイ）

平成 23 年 3 月 11 日、私はパラグアイにいた。その日、日本からの電話で目を覚まし、その日の活動を終えてテレビをつけると、信じられないような光景を見た。津波が家を押し流している光景であった。それから、パラグアイでも首都で募金活動が行われ、同時に、「¡Fuerza, Japón! (がんばれ、日本!）」とたくさんの方々の声をいただきパワーをもらった。パラグアイからは大量の大豆が送られ、日本の企業の手で豆腐が被災地へ届けられた。これには、日系移住の方々の思いも強く込められていたように感じた。

そして今年 1 月に帰国し、パラグアイで知り合った友人を訪ね 2 月 19 日に宮城県気仙沼市を訪問した。気仙沼市は人口 7 万人、カツオの水揚げ、フカヒレ生産日本一の漁業の町であり、去年の大震災で津波の被害を大きく受けた所でもある。思った以上に早く到着し、友人の仕事が終わるまでタクシーで市内を回った。タクシー運転さんは、震災取材者を乗せたことがあるというだけあって、色々なことを教えてくださった。「ここから、景色が一変するから…心構えはいいかい。」と見た景色は、分譲住宅が建つ前の新地のように、建物の土台だけがきれいに並んでおり、少し遠くに青い穏やかな海が見えた。



ところどころにポツポツと津波の後の建物やありえない場所に船が残っており、高台から見た町はここが一番栄えていた所と聞いても、全く想像できなかった。次に進んで行くと、400トンはあるという船が海からかなり離れた場所でドンと腰を据えていた。「この船、津波に流されてきたんだって。もっと陸の方に流されたいけどね、波が引く時に戻されて、ここに留まったって。ここら一帯は、津波の後、火事がすごかった所。三日は火が消えなかったらしい。見た人によると、どこを見ても火で地獄絵図だったって。他の県からも消防が駆けつけてくれたそうでね、本当に感謝してる」と、高台に上り町を見下ろすと、

線路で高くなった境目で手前と奥、景色があまりに違い、波が来たところがクッキリとわかった。「ここから見る景色を絶対に忘れないで、頭に心に焼きつけて帰ってよ。」と、見ている上から雪が降ってきた。「…あの日もこんな天気だったんだよ。寒くてね、電気も使えないし、食べ物も無くて一日におにぎり一個だったよ。物が届くようになるまではね、近所の人と物を分け合って暮らした。スーパーが開くには、一か月はかかったと思うな。ここらの店は本格的に再開するのに早い所で三か月はかかった」など、その時のことを話してくださった。



それから、商店街やホテルの復興グッズを見て、友人が仕事を終える時まであちこち行っただ。仮設店舗が出ていたりするが、人通りは少なかった。場所によっては瓦礫は山積みになって残っている状態であった。友人は神奈川県出身であるが、震災当初救援に来て知り合った病院で働いている。住民は仕事を失った方も多いが、看護師は人手が足りず、十分な休みがとれない状況だそう。夜は仮設の店舗で刺身をいただき、久々の再開に嬉しくパラグアイの事や様々な話をし、町の人からは気さくで人情味を感じ、食べ物はおいしく、気仙沼市をたくさん感じて、香川に戻った。



そして、現在、私は気仙沼市で嘱託看護師として働いている。話せば長くなるが、求職中にも香川県 OV 会を通じ知り合った元パラグアイ隊員の大学教授にお世話になったり、仮設住宅の住民も次の住居が見つからない状況の中で私自身の住居が確保できる状況ではなく、職員の実家を間借りさせてもらったり、たくさんの方々の配慮で、ここで今、私は生活できている。パラグアイから帰国後、温かく迎え、また送り出してくれた家族や友人、仲間へ感謝。皆さんもぜひ、自分のために、大事な人のために、住む地域のために、自分の身の回りから災害や自然、家族や人との繋がり等について考えてみませんか。



## 愛染寺とパラグアイ

JICA 四国支部長 長澤一秀

今回から3回シリーズで、パラグアイの話題について寄稿したい。パラグアイには香川県庁から石濱JVが派遣されており、元気で活躍されている国である。石濱さんの記事を読んだ方も多いものと思う。

第1回目はパラグアイの経済発展を支えている日本人移住者の話。その第一号が香川県小豆島出身。香川県人が移住地と定めたラ・コルメラ市、パラグアイの発展と苦悩について。第2回目は現在、香川県とJICAがラ・コルメラ市の発展のために支援している「農産物利活用プロジェクト」事業の話。第3回目は南米の開拓に力を注いだ移住者の多くが、家族にもみとられずにかの地で亡くなっている。牟礼にある愛染寺に慰霊碑を建立し、供養をしている今雪住職の話。

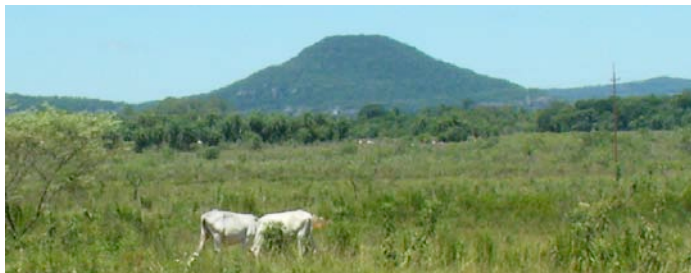
### 第1回：南米のパラダイス・パラグアイ

まず、パラグアイは南米のパラダイスと呼ばれ、豊かな自然と農産物に恵まれ、食事もおいしく、かつ、人柄も穏やかで、JICAの中の人気度はNO. 1の国である。

一人当たりGNPは2700ドル、国土面積は日本の1.1倍、人口630万人、牛の数が1000万頭。周辺国ブラジル、アルゼンチンなどは9000ドルを超え、先進国の仲間入りを目前にしているが、国力はまだそこまで育っていない。毎日シュラスコを食べても飽きない、そして、ビールがうまい。

### ラ・コルメナのさぬき富士

パラグアイの首都・アスンシオンから2時間、青々と広がる草原を走っていくと「さぬき富士」が現れる。75年前にパラグアイへ移住を決意した土庄出身の笠松尚一ほかの香川県人が移住の地と定めたのは、讃岐の郷愁を醸し出すラ・コルメナであったということに合点した。



日本から初めてパラグアイに移住し、未開の地を開墾し、苦労の末にパラグアイ人社会からも受け入れられ、パラグアイの日本人移住者の先達として、立派な功績を成し遂げたことが伺われる。

その後JICA(前身の移住事業団)が戦後の国策移住を推進することとなるが、香川から約200人、高知から約1000人、愛媛から約500人がパラグアイに渡り、日本人移住者約7000人の1/4が四国からの移住者である。大豆の生産量世界3位、パラグアイの輸出の第1位を占め、国の経済発展に大いに貢献している。日系人移住地には大豆御殿が建っているとの話を聞いた。



### モノカルチャーの苦悩

しかしモノカルチャーの農業はうまくいかない。今年干ばつによって、大豆の生産量は約40%の減産となり、大豆生産のみに依存する日本人移住者の多くが大きな打撃を蒙っている。

農産品目の多様化、アグリビジネスの導入などの転換を図る必要がある。

### 世界一のダム、イタイプ

パラグアイと言えばイタイプ・ダムが第一にあげられる。18基のタービンのうち9基はパラグアイのものであるが、電力は2基で間に合う。7基分はブラジルへ輸出して外貨を稼いでいる。羨ましくも将来にわたって、自然エネルギーで十分な国である。

観光にも大いに貢献しており、これまで1600万人が訪問、年間100万人以上が訪れている。

原発の稼働を騒いでいる日本とは大きな違いである。



～ つづく ～

## 国際協力推進員、交替しました！



### 前推進員 山下理香(H14-1 マレーシア 日本語教師)

こんにちは。推進員時代の3年間、大変お世話になりました！OGでないにもかかわらず、温かく仲間に入れていただき、ありがとうございます。イベントや飲み会など一緒にさせていただき、楽しかったです。飲み会での自己紹介が完結するのを見ることができなかったのだけが心残りです(笑)また、推進員の任期中に現地でも活動されていたみなさま、写真や原稿をお送りいただき、ありがとうございました！現地からのレポートやメール、いつも楽しみにしていました。これからもアイパルでお会いできると思いますので、引き続きよろしくお願いします！

### 新推進員 西岡美紀

こんにちは、はじめまして！新推進員の西岡美紀です。香川県のすぐ隣にある愛媛県の四国中央市からやってきました。以前はフィリピンで、船員管理や現地法人の管理をしていました。推進員の仕事も香川のことのみ勉強中です！みなさまには、これからいろいろとお世話になりますが、どうぞよろしくお願いします。



山下さん、3年間お疲れさまでした！西岡さん、香川へようこそ！

香川県青年海外協力協会  
★新理事紹介★

**新副会長**

**花岡潤 (H12-2・村落開発普及員/パプアニューギニア)**

みなさん、はじめまして。この度新しく副会長をさせていただくことになりました花岡潤と申します。協力隊では12年度2次隊としてパプアニューギニア派遣で、村落開発普及員として活動しました。同じく今回副会長となった名村さんとは同期です。協力隊を終え、JICAの国際協力推進員やNGO職員などの職歴を経て、現在は香川県のJICA四国支部で働いています。仕事柄、これから協力隊に行く人たちがOV会の皆さんに接する機会が増え、今さらながら協力隊に参加しようと思いつ人たちは味があるなあと思っています。昨年香川県OV会のコアメンバーで集まる機会が増えました。徐々にですが、これから活動が活発になる予感がしています。協力隊時代を思い出し、みんなで協力して面白いことが出来るよう、微力ながらお手伝いさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。



▲花岡(左) & 名村(右) : 同期仲良しコンビです。

**新副会長**

**名村欣哉 (12-2・日本語教師/パプアニューギニア)**

愉快的な香川県OV会のみなさん、はじめまして♪  
この度、ランキング外(理事会にも入っていませんでしたが)からいきなりヒットチャート入り?したかのごとく、宴会部長(自称)から新しく副会長をさせていただくことになりました名村欣哉と申します。協力隊では12年度2次隊としてパプアニューギニア派遣で、日本語教師隊員としてバリバリ活動しました。同じく今回副会長となった花岡氏とは同期の悪友です。協力隊を終え、JICA中国国際センター(東広島市)の市民参加協力調整員やザンビアのボランティア調整員、青年海外協力隊事務局などの職歴を経て、現在は香川県のJICA四国支部で働いています。出身は兵庫県ですが、広島県OV会や東京OV会と各地のOV会を転々し、レジェンド?を作ってきたので、

ここ香川のOV会でもいい感じで、皆さんと楽しくOV会活動をやっていけたらと思います。これからもムードメーカー?として、濃い香川県OVを盛り上げていこうと思いますので、何卒よろしくお願いいたします。

**新理事**

**三好稔 (S48-1・自動車整備/タンザニア)**

OB,OGの皆さんこんにちは。今回香川県青年海外協力協会の理事とJOCAの四国ブロック副幹事を仰せつかりました、三好稔です。皆様と一緒にOB/OG活動出来ることを楽しみにしています。

タンザニアでの活動は内陸にあるブコバ市から更に120km程奥地に牧場建設プロジェクトが進行され現場で使われていた建設機械・車両等の保守整備を職員とキャンプ生活中心に活動していました。

帰国後はホンダディーラー一筋に勤務、その後、2002年10月からシニア海外ボランティアに目覚め?ジャマイカ国(ハリケーンに遭遇)、フィジー国(クーデターに遭遇)、ボリビア国(3.11を任国で知る)と自動車整備関連の仕事に携わりながら途上国の人達との楽しい触れ合いを満喫し、昨年4月より高松に帰っています。現在は高松空港の近くにある、障害者自立支援組織「NPO法人・かしの実作業所」にて指導員として仕事をしています。



▲三好(左) & 高橋(右) : こちらも20-4同期です♪

**新理事**

**高橋梓 (H20-4・PCインストラクター/モンゴル)**

はじめまして。新たに仲間に入れていただきました高橋梓です。早いもので、みなさまに送りだして頂いてからあっという間に任期が終わり、帰国からも1年が過ぎてしまいました。香川に帰ってからの1年も、OB会のみなさまとはイベント等さまざまな場でご一緒させていただきました。任国の人々や派遣中の協力隊仲間との出会いのような、素敵なご縁に帰国後もたくさん恵まれ、とても嬉しく思いながら活動に参加させていただいています。紆余曲折しながらもなんだかんだ高松に留まっていますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします!これから帰国される隊員のみなさまとお会いできる機会も楽しみにしています。

■編集後記■ 前回の東日本大震災特別号(3.11発行)に続き、嬉しい事に順調に原稿が集まり、よいペースで今号の発行を迎えることが出来ました。お忙しい中執筆いただいた皆様、またお手伝いいただいた皆様ありがとうございました!さて、いよいよ夏本番。自宅の自室は、エアコンなしの西向き。厳しい西日との闘いです。エコで涼しい夏の過ごし方の研究に勤しみたいと思います。(20-4 高橋梓)

■発行日■平成24年8月1日

■発行元■香川県青年海外協力協会

■ホームページ■<http://www.shikoku.ac.jp/~jocakgw>

会長 高橋和寛